

第94回愛知県産業教育審議会答申について

このことについて、平成25年1月30日に第94回愛知県産業教育審議会を開催し、答申を得ましたので、別紙資料に基づき報告します。

平成25年2月8日

高等学校教育課

## 平成 24 年度愛知県産業教育審議会委員名簿

委 員	( 順不同・敬称略 )
名古屋大学大学院教授	寺 田 盛 紀
椋山女学園大学教授	東 珠 実
名古屋学芸大学教授	石 原 久 代
愛知県経営者協会専務理事兼事務局長	柴 山 忠 範
愛知県農業協同組合中央会専務理事	伊 藤 寿 治
名古屋鉄道株式会社常務取締役	安 藤 隆 司
奥野工業株式会社取締役副社長	天 野 櫻 子
中部電力株式会社名古屋支店春日井営業所長	高 橋 理 江
ユニ一株式会社人事教育部教育担当部長	吉 田 真由美
愛知県議会産業労働委員会委員長	小 島 丈 幸
愛知県議会農林水産委員会委員長	安 藤 としき
愛知県議会文教委員会委員長	浅 井 喜代治
さくら学園理事長	岩 瀬 せつ子
愛知県立総合看護専門学校長	村 瀬 裕 子
大同大学大同高等学校長	加 藤 安 信
愛知県立安城農林高等学校長	塚 本 昭 彦
愛知県立愛知工業高等学校長	川 嶋 繁 勝
愛知県立愛知商業高等学校長	野 田 隆 洋
愛知県立成章高等学校長	青 木 睦 彦
江南市立草井小学校長	鈴 木 義 己

高等学校における産業教育等を通じた  
本県産業を担う人材の育成方策  
( 答申 )

平成 2 5 年 2 月 8 日

愛知県産業教育審議会

# 高等学校における産業教育等を通した 本県産業を担う人材の育成方策

## はじめに

本県は、製造品出荷額等が昭和52年以来34年連続して全国1位を誇るものづくり立県であり、高等学校における産業教育等を通して、これまで幅広い分野で産業・社会を担う人材を輩出してきた。しかし、科学技術の進歩等による技術の高度化や社会経済・産業的環境の国際化が急速に進展し、社会のさまざまな情勢の変化に対応できる柔軟性と創造性に富んだ人材の育成が求められている。

このような中、平成21年3月に公示された高等学校の新学習指導要領において、専門教育には、将来のスペシャリストの育成に必要な専門性の基礎・基本を一層重視すること、将来の地域産業を担う人材を育成すること、人間性豊かな職業人を育成することなどが改善の視点として掲げられている。

また、中央教育審議会のキャリア教育・職業教育特別部会の答申には、普通科を含む全ての高校生が、将来、社会的・職業的に自立するために必要な基盤となる基礎的・汎用的能力や専門的な知識・技能を備え、その能力を生涯にわたって発揮できるよう、職業教育の一層の充実が重要であると示されている。

本県では、新学習指導要領の移行措置等も踏まえ、平成22年度から全ての高等学校においてインターンシップやジョブシャドウイング等の実施を推進してきたが、学校・学科ごとの取組状況に差があるなどの課題がある。

そこで、平成25年度からの新学習指導要領の完全実施に向けて、本県産業の発展や地域社会の振興を担う優れた人材をどのように育成していくかという具体的な方策を、第1部として、「新学習指導要領の趣旨を踏まえた産業教育の在り方」について示し、第2部として「キャリア教育・職業教育を通した本県産業を担う人材の育成方策」について示す。

## 第 部

新学習指導要領の趣旨を踏まえた産業教育の在り方

## 新学習指導要領の趣旨を踏まえた人材の育成方策

### 1 本県専門高校の取り組むべき具体的事項

平成18年12月に公布された改正教育基本法や平成19年6月に公布された学校教育法の一部改正及びその国会審議等を踏まえ、平成20年1月の中央教育審議会答申において、学習指導要領の改訂の基本的な考え方が示されるとともに、各教科等の改善の基本方針や主な改善事項が示された。この答申の中で示された職業に関する各教科・科目の改善の具体的事項に基づき、本県専門高校の取り組むべき事項を示す。

#### (1) 将来のスペシャリストの育成

専門分野に関する基礎的・基本的な知識、技術及び技能の定着  
コミュニケーション能力・チャレンジ精神などの積極性・創造性等の育成

#### (2) 将来の地域産業を担う人材の育成

地域産業や地域社会との連携・交流を通じた実践的教育  
外部人材を活用した授業等の充実

#### (3) 人間性豊かな職業人の育成

職業人としての規範意識や倫理観を育む指導  
環境・エネルギー問題への対応  
情報の活用、情報モラル等の情報教育の充実

#### (4) 上記以外の各専門教科別視点を踏まえた生徒の育成

### 2 新学習指導要領の趣旨を踏まえた具体的な方策の概要

新学習指導要領で示された職業に関する各教科の目標に基づく、本県産業の発展や地域社会の振興を担う優れた人材を育成するための主な方策について以下に示すとともに、平成24年度からの5か年計画を掲載(P7~P23)する。

#### (1) 農業に関する学科

実験・実習を通して、基礎的・基本的な知識・技術の定着を図る。さらに、教科「農業」の教育目標を達成するため、より専門的な学習の機会や産業現場における長期間の実習等を取り入れる。

科目「課題研究」、「総合実習」における作物や動物の生育に関する調査や新品種の開発等において、生徒が主体的に聞き取りや意見交換を行うことでチャレンジ精神やコミュニケーション能力を育成する。また、学校農業クラブ活動の充実を図り、全ての生徒に農業に対する考えや自分の将来について、意見をまとめさせ、その要旨や研究成果を発表する機会を設ける。

将来のスペシャリストとして必要な専門分野の基礎的・基本的な知識・技術の定着を図るため、学んだことを地域住民とともに実践するなど、意欲的な学習態度を育成する。

作物の販売実習を通して、栽培や流通に関する知識・技術の習得を図る。また、地域の特産物を教材として扱い、地域の生産者・技術者との技術交流の機会を増やす。

地域農業研修会を充実し、農業後継者としての意識の高揚や経営上の課題等についての問題意識を高めるとともに、プロジェクト学習の深化を図り、地域農業や地域社会の発展に貢献できる農業技術の研究に努める。

## (2) 工業に関する学科

新たな時代のものづくり産業を支える人材として、明確な目的意識をもって工業技術者として自立していくことができるよう、入学時から計画的にキャリア教育を推進する。また、工業に関する専門分野の基礎的・基本的な知識や技術及び技能を実験・実習を通して身に付けることができるよう、企業や大学との連携を取り入れた教育活動を展開する。

科目「課題研究」や現場実習等の発表会において、企業、大学等の方による外部評価も取り入れ、研究成果を分かりやすく表現する能力を育成する。

工業の各科目において、工業に関する技術英語を使った授業を展開し、リスニング英語検定等の資格を取得するなど、英語を使ったコミュニケーション能力を育成する。

地域と連携し、小・中学生を対象に、学科の特性を生かしたものづくり講座等を設定することで、多くの体験的な学習の場とするとともに、地域社会のニーズに応じた取組を実施する。

科目「工業技術基礎」、「実習」等において、技術者に求められる使命や責任、倫理観に関する指導をさまざまな場面で取り入れるとともに、現場実習において、工業技術者としての倫理観に触れさせる機会を設ける。また、企業を定年退職した方を含めた熟練技術者・技能者による外部人材を活用した授業や教員研修の充実を図る。

## (3) 商業に関する学科

目標をもった意欲的な学習につなげることや実践的な態度を身に付けるため、本県独自の競技大会（販売実習、接客マナー、商品開発等）を開催する。また、他の専門学科（農業、工業、家庭等）や企業との連携による商品開発を行う。

ケーススタディを授業に取り入れるなど、具体的なビジネスの場面を想定した機会を多く設けることにより、コミュニケーション能力や課題解決能力を育成する。

商工会議所、商工会、公共職業安定所等の関係機関との連携を図り、全ての生徒がインターンシップの実施を目指す。その際、地元市町村等と情報の共有化を図り、地域の資源を有効に活用するとともに、生徒が地域産業振興に貢献しているという意識が高まるように取り組む。

高大連携を積極的に行い、高度で専門的な学習の機会を設けるとともに、上級資格を生かした進路実現を目指す。また、産業界のプロ（ホテル、百貨店、ネットワーク管理会社等の社員）による講演会をテレビカメラシステムで中継し、全ての商業高校生が視聴できる取組を実施する。

電子商取引による模擬実践を通して、実社会における情報モラルについて体感することや著作権の問題を積極的に扱うなど、情報モラルを高める取組を実践する。

#### (4) 水産に関する学科

「海、水産物、船」を素材とした海の総合的な教育の充実を図るため、科目「水産海洋基礎」で水産や海洋に関する基礎的な知識・技術を学び、生徒の興味・関心を高めるとともに、水産業及び海洋関連産業の意義や役割を理解させる。また、全ての学科において、水泳訓練やカッター実習を必修とし、小型船舶操縦士の資格取得を目標とする。

地元の漁業協同組合や水産試験場と連携して、人工干潟におけるアマモ場造成活動や山間部における森林保全活動等に積極的に参加する。また、未利用水産資源の活用や水産食品の開発等、水産物の持続的生産と安定供給を図るための学習活動を展開するなど、環境保全と水産業の発展に寄与する創造的な能力と実践的な態度を育成する。

外部人材を活用した授業の充実を図り、高度な技術や実践的能力を育成する。特に、メンタルヘルスとしての海洋の役割や海洋性レクリエーションの場として海洋関連産業の在り方を学ぶため、マリンスポーツやマリトレジャー関連企業等に勤務する方を外部講師として招き、実践的な教育活動を展開する。

#### (5) 家庭に関する学科

上級学校との連携による学校外における学修の単位認定等のシステムを検討する。また、総合教育センターや家庭科研究会主催の夏期研修会等の教員研修への参加により、教員の指導力を高める。

就業体験、異校種間交流、地域交流、学校祭、卒業研究発表会等に対する学校関係者評価を行い、地域産業や地域社会との連携・交流による地域理解の深化及び教育活動の周知を図る。

地域のイベントへの参加や運営補助、ボランティア活動等の学校家庭クラブ活動を一層充実し、地域との連携・交流を通じた実践的な教育活動を展開する。

原則履修科目「生活産業基礎」において、社会人としての規範意識、倫理観及び起業家マインドの育成を図る。



科目「家庭基礎」や「家庭総合」において、環境・エネルギー、食の問題等に関する指導の充実を図る。

(6) 看護に関する学科

地域住民や小・中学生対象の健康教室を開催するなど地域社会との交流やグループワークを取り入れ、看護倫理、コミュニケーション能力、人権を尊重する態度等を身に付ける指導の充実を図ることで、医療の高度化、患者の高齢化、重症化等に対応できる実践力を育成する。

科目「看護の統合と実践」において、知識・技術の統合を図り、臨床での実践に限りなく近い内容で演習・実習を行い、臨床に柔軟に対応できる能力と態度を養う。また、複数患者に対する看護実践の優先度の考え方やチーム医療、院内他職種及び病院と在宅医療等との連携の在り方などの教育活動を展開する。

医療安全や災害看護の学習において、外部講師の積極的な活用を行い、さまざまな場面における倫理観の醸成や将来のスペシャリストとしての資質向上を図る。

(7) 福祉に関する学科

介護に関わる外部講師を招へいし、現場で必要な実践的な介護技術や自立支援に向けた具体的な技術を育成するとともに、生徒一人一人の理解度に合わせた指導を通して、福祉の専門職に必要な知識・技術の定着を図る。

体験入学や公開授業、小・中学校への出前授業、地域住民への介護講座等を実施し、他者や社会と関わることで、学習意欲を向上させ、多様で質の高い福祉サービスを提供できる人材を育成する。また、実習を通して学んだことを、保護者や施設の職員を招いて発表するなど、自己表現力や積極性を養う。

高大連携を通して、幅広く教養としての福祉を学ばせるとともに、職業選択の幅を拡大する。特に、大学、専門学校等への対応も踏まえ、高度な知識・技術を有する援助者にふさわしい人材を育成する。

## 新学習指導要領の趣旨を踏まえた 人材の育成方策の5か年計画

- 1 将来のスペシャリストの育成
  - (1) 専門分野に関する基礎的・基本的な知識、技術及び技能の定着
  - (2) コミュニケーション能力・チャレンジ精神などの積極性・創造性等の育成
  
- 2 将来の地域産業を担う人材の育成
  - (1) 地域産業や地域社会との連携・交流を通じた実践的教育
  - (2) 外部人材を活用した授業等の充実
  
- 3 人間性豊かな職業人の育成
  - (1) 職業人としての規範意識や倫理観を育む指導
  - (2) 環境・エネルギー問題への対応
  - (3) 情報の活用、情報モラル等の情報教育の充実
  
- 4 上記以外の各専門教科別視点を踏まえた生徒の育成

1 将来のスペシャリストの育成

(1) 専門分野に関する基礎的・基本的な知識、技術及び技能の定着

大学 学科名	新学習指導要領の趣旨を踏まえた 具体的な方策の概要	新学習指導要領の趣旨を踏まえた具体的な方策の実施計画					
		取組・施策	実施計画				
			2012 (H24)	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)
農業科	新科目「農業と環境」を中心とする基礎・基本の充実	新科目「農業と環境」をはじめとする専門科目の学習内容の検討とその教材（ミマム・イッセシャルズ）の作成	検討及び実践	新科目等の実践報告会			
				教材の作成		教材の活用	
工業科	キャリア発達に基づく基礎・基本の習得	キャリア教育の年間指導計画の実施	キャリア教育の年間指導計画の策定	キャリア教育の年間指導計画の実施			
	教員等の資格取得の充実	若手(初任者から5年経験者まで)教員の国家資格、技能検定等の取得の奨励(一人一つ以上の専門に関連する検定等の取得を目標)	若手教員の資格取得状況の調査及び初任者研修や現職研修等における実技講習の実施、参加				
商業科	技術活用能力の育成	科目「電子商取引」、「総合実践」による模擬的取引の実施	モデル校(3校)による発表	全県(12校)での電子商取引を開始	実施高校の拡大と内容の充実 [90%]	[100%]	
	県独自の競技大会(販売実習・接遇マナー・商品開発等)の実施	新設競技大会の開催	新設競技大会の検討	デモ大会の実施	第1回大会の実施 [100%]		
	他の専門高校との連携	他の専門高校との連携	現状の把握	モデルプランの提示	科目「課題研究」における実践 [50%]	実施高校の拡大と内容の充実 [70%]	[100%]

大学 学科名	新学習指導要領の趣旨を踏まえた 具体的な方策の概要	新学習指導要領の趣旨を踏まえた具体的な方策の実施計画						
		取組・施策	実施計画					
			2012 (H24)	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	
水産科	「海、水産物、船」を素材とした 海の総合的な教育の充実	新科目「水産海 洋基礎」をはじ め各専門科目 の効果的な教 育活動の実践	学習内容 の検討と 年間活動 計画の作 成	年間活動 計画の実 施と改善  [33%]	[66%]	[100%]		→
家庭科	上級学校との連携 (学校外における学修の単位認定 の検討)	プロジェクト チームを編成 し、大学等との 連携による学 習	プロジェ クトチー ムの編成 による企 画書の作 成	連携校の 開拓	実践  [50%]	[80%]	[100%]	→
	教員研修の充実	教員研修による技術指導力の強化	教員研修の受講					→
看護科	新科目「人体と看護」、「疾病と看護」、「生活と看護」の3科目を中心とする基礎・基本の充実	新科目の効果 的な教育活動 の実践	各科目の 教育内容 を相互に 考慮した 指導内容 及び指導 方法の検 討	検討した 内容及び 方法の実 施と改善				→
福祉科	法改正に伴う新教育課程による生徒一人一人の理解度に合わせた指導の確立	指導内容及び 指導方法、指導 時期等の体系 化	指導内容及び指導 方法等の 検討	指導内容及び指導 方法等の 確立				→

(2) コミュニケーション能力・チャレンジ精神などの積極性・創造性等の育成

大学 学科名	新学習指導要領の趣旨を踏まえた 具体的な方策の概要	新学習指導要領の趣旨を踏まえた具体的な方策の実施計画					
		取組・施策	実施計画				
			2012 (H24)	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)
農業科	科目「課題研究」、「総合実習」における生徒主体の調査、研究及び発表会の実施	プロジェクト活動の充実、関係機関との連携	全学科でのプロジェクト活動の実践と発表会の実施		試験・研究機関、企業等との連携について、検討及び実施		実践内容の報告会と情報発信 [100%]
	学校農業クラブ活動の充実	学校農業クラブ活動の充実	学科に係る各種発表会・競技会への参加	[100%]	達成度の評価と新たな目標設定	[80%]	[100%]
工業科	科目「課題研究」、企業実習（地域ものづくりスキルアップ講座、インターンシップ）等の発表会の実施	科目「課題研究」等の発表会における外部評価の実施	評価項目内容の検討	発表会における外部評価の実施 [40%]	[60%]	[80%]	[100%]
	英語を使ったコミュニケーション能力の向上	工業の各科目で英語力を高める指導の年間計画の実施（一人一つ以上の英語に関する検定等の取得を目標）	工業の各科目で英語力を高める指導の年間計画の策定	工業の各科目で英語力を高める指導の年間計画の実施			
	ものづくり競技大会等への積極的な参加	各校全ての学科において、関連する競技大会への参加	現状の把握と検討	各校における関連競技大会への参加 [80%]	[100%]	各校全学科における関連競技大会への参加 [80%]	[100%]
商業科	ケーススタディ教育の導入	ケーススタディ手法を授業に導入	部会による教材の開発	モデル校（3～5校）での実施	実施校、実施科目の拡大 [80%]	[90%]	[100%]
	企業との連携による商品開発	企業との連携による商品開発	科目「課題研究」における実践 [50%]	（全国産業教育フェアで紹介） [70%]	[80%]	[90%]	[100%]

大学 科 名	新学習指導要領の趣旨を踏まえた 具体的な方策の概要	新学習指導要領の趣旨を踏まえた具体的な方策の実施計画					
		取組・施策	実施計画				
			2012 (H24)	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)
水 産 科	地域に密着した学習内容を設定した科目「課題研究」等の実践	科目「課題研究」等の発表会における外部評価の実施	全ての学科で発表会を実施	研究機関との連携及び外部評価の導入 [40%]	[60%]	[80%]	[100%]
	未利用水産資源の活用や水産食品の開発に関する研究	民間企業と連携した未利用水産資源の調査と、有効利用法の研究及び新商品の開発	未利用水産資源の商品化に向けた研究	未利用水産資源の商品化に向けた試作品の完成 [100%]	新商品開発の継続 [50%]	[70%]	[100%]
家 庭 科	積極性・創造性等の育成を見据えた指導法の研究	言語活動との関係を重視した指導法の研究	学習指導案等の作成	授業実践及び学習効果の検証・改善 [40%]	[60%]	[80%]	[100%]
	学校内外の取組に対する学校関係者評価の実施	就業体験、異校種間交流、地域交流、学校祭、卒業研究発表会等に対する学校関係者評価の実施	評価表の検討	実施と評価・改善 [100%]			
看 護 科	効果的な社会人講師の活用とグループワークの実施	社会人講師の活用と、グループワーク及び他校との合同学習会を実施	社会人講師の活用と、グループワーク及び合同学習会の実施と評価・改善 [100%]				
福 祉 科	介護実習報告会の実施	介護実習報告会の実施	報告会の実施及び評価・改善	[50%]		(校外等で発表)	[100%]
	授業公開、小・中学校への出前授業、地域住民への介護講座等の実施	授業公開、出前授業、介護講座の開催	実施及び評価・改善	[80%]			[100%]

## 2 将来の地域産業を担う人材の育成

### (1) 地域産業や地域社会との連携・交流を通じた実践的教育

大学 科名	新学習指導要領の趣旨を踏まえた 具体的な方策の概要	新学習指導要領の趣旨を踏まえた具体的な方策の実施計画							
		取組・施策	実施計画						
			2012 (H24)	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)		
農 業 科	地域交流による基礎・基本の定着	地域との交流活動や異校種との交流の推進	交流活動の精選と実施	→	全学科による報告会 [100%]	地域との交流活動の評価・改善	→		
	作物の販売実習による栽培・流通に関する知識と技術の定着	外部イベントへの出展による栽培・流通の知識・技術の習得	現状把握と検討	各校における外部イベントへの出展 [60%]	[80%]	(実践内容の報告と検証) [100%]	→		
	特産物の生産を通して、地域の生産者・技術者との交流	特産物の生産、商品開発技術の伝承	地域の特産物の情報収集と教材化	→	[100%]	地域産業界との連携による商品開発の検討	実践内容の研究発表 [100%]		
工 業 科	企業実習（地域ものづくりスキルアップ講座等）の実施	地域ものづくりスキルアップ講座等による企業と連携した技術・技能の習得	商工会議所等との連携による実施	→	[100%]	協力企業の拡大と内容の充実	→	各校におけるシステムの構築 [100%]	
	各学科の特色を生かしたイベント内容の研究・実践	全学科の外部イベントへの出展	現状の把握と検討	各校における外部イベントへの出展 [80%]	→	[100%]	各校全学科における外部イベントへの出展 [80%]	→	[100%]
	ものづくり講座の開催	小・中学生、地域の方を対象にものづくり講座を開催	小・中学校、商工会議所等と連携による実施	→		連携・協力の拡大と内容の充実	→		
商 業 科	地域資源の有効活用と関係機関との連携・協力の実践	卒業までにインターンシップを実施	各校で実施計画の作成及び学科単位での実施の準備	各校、学科・学年単位でのインターンシップ [50%]	各校で全生徒によるインターンシップを実施 [70%]	[80%]	→	[100%]	

大学 科名	新学習指導要領の趣旨を踏まえた 具体的な方策の概要	新学習指導要領の趣旨を踏まえた具体的な方策の実施計画					
		取組・施策	実施計画				
			2012 (H24)	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)
水産科	地域交流による基礎・基本の定着	近隣の小・中学校等への出前授業の実施	全学科で出前授業を計画	出前授業の実施 [30%]	[60%]	[80%]	[100%]
	水産・海洋関連産業の発展を担う人材の育成（産学官の交流）	産学官の連携による陸上アワビ養殖の開発	陸上アワビ養殖の研究	陸上アワビ養殖の研究と試行			完全養殖化と関連企業への就職
	人工干潟におけるアマモ場造成や森林保全活動の実施	地元漁業協同組合や水産試験場との連携	アマモ場の造成活動の内容検討		アマモ場の拡大に向けた実践活動		
		森林保全活動の内容検討	森林保全活動の実践と拡大		県民も含めた取組の実践		
家庭科	地域産業や生活文化についての理解の深化と周知	インターンシップの実施	実施 [90%]	[100%]			
		地域のイベントやボランティア活動、コンクールへの参加	各校の取組の把握と検討会の実施	愛知エースネット等で公表 [50%]	[80%]	[100%]	
看護科	臨床に対応できる能力の育成	チーム医療の在り方、臨地実習指導者との連携	臨地実習指導者との連携方法の検討	臨地実習指導者との連携の実施 [100%]			
福祉科	ボランティア活動や地域のイベントへの参加	福祉施設や市町村と連携し、継続的な交流の実施	参加イベントの検討・実施	参加内容や発表内容の精選及び実施、評価・改善 [80%]			[100%]
	学校の施設・設備を活用した地域交流の実施	介護講座や学校デイサービスなどの実践による知識・技術の習得	検討及び実施、評価・改善 [50%]				[100%]



(2) 外部人材を活用した授業等の充実

大学 科 名	新学習指導要領の趣旨を踏まえた 具体的な方策の概要	新学習指導要領の趣旨を踏まえた具体的な方策の実施計画					
		取組・施策	実施計画				
			2012 (H24)	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)
農 業 科	外部講師の導入による地域産業界 が求める人材の育成	全ての学科に おける外部講 師の導入	実施内容 の検討	外部講師 の導入と 改善、情 報の共有 化	[100%]	(新規講 師を 検 討)	→
工 業 科	外部講師の導入による地域産業界 が求める人材の育成	全ての学科に おける科目「工 業技術基礎」、 「実習」、「課 題研究」に関 する外部講師 の導入	実施内容 の検討	各校の一 部学科に おける科 目「工業 技術基 礎」、「実 習」、「課 題研究」 に関する 外部講師 の導入 [80%]	[100%]	各校の全 学科にお ける科目 「工業技 術基礎」、 「実習」、 「課題研 究」に関 する外部 講師の導 入 [80%]	→
	企業の専門技術者や技能者による 教員向け研修会の実施	地元企業を定 年退職した高 度熟練技術 者・技能者等 を指導者とし て活用	実施内容 の検討	商工会議 所等との 連携によ る実施	→	協力企業 の拡大と 内容の充 実	→
商 業 科	遠隔地テレビカメラシステムを使 った講演会の実施	遠隔地テレビカ メラシステム の実施	モデル校 の指定及 びモデル 校による 実演の実 施	各学校間 での実施 [80%]	[100%]	全県での 合同開催 と開催回 数の拡大	→
	高大連携による高度で専門的な内 容の学習	専門性の深化 を図る高大 連携の実施	実施状況 の集約と 協力大学 のデータ ベース化	高大連携 の実践校 の拡大と 連携形態 の検証 [50%]	[60%]	[80%]	[100%]

大学 科名	新学習指導要領の趣旨を踏まえた 具体的な方策の概要	新学習指導要領の趣旨を踏まえた具体的な方策の実施計画						
		取組・施策	実施計画					
			2012 (H24)	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	
水産科	外部講師の導入による地域産業界が求める人材の育成	マリンスポーツ関連施設やマリンレジャー産業等に勤務する外部講師を活用した教育活動の実施	高度な技術をもつ海洋関連産業等の講師に関する人材バンクの作成	外部講師による授業の実施 [70%]	→ [100%]	→	教育的効果の検証と外部講師の新規開拓 [70%]	→ [100%]
家庭科	外部講師の導入による地域産業界が求める人材の育成	外部講師リストの共有化と講演会の開催	講習内容や外部講師等の検討、講師リストの作成	外部講師による講演会の開催 [70%]	[80%]	[90%]	[100%]	→
看護科	大学講師による特別授業や臨地実習施設の指導員等の職業講話の実施	高い倫理観とコミュニケーション能力を身に付けるための特別授業や時代に即応した専門的な看護技術などの講義の実施	大学や臨床からの外部講師の検討及び導入、評価・改善 [100%]					→
福祉科	外部講師の導入によるレクリエーション活動援助法やカウンセリングの基礎などの講習会等の実施	講習会・講演会の開催	現状把握及び講習会の開催 [80%]					→ [100%]
	高大連携による高度で専門的な内容の学習	専門性の深化を図る高大連携の実施	実施状況の集約と協力大学のデータベース化 [80%]	高大連携の実践校の拡大と連携形態の検証				→ [100%]
	医師講師、介護福祉士等の専門職による講習会等の実施	特別非常勤制度の活用、各種講習会の開催	制度の活用、講習会の開催 [80%]					→ [100%]

### 3 人間性豊かな職業人の育成

#### (1) 職業人としての規範意識や倫理観を育む指導

大学 学科名	新学習指導要領の趣旨を踏まえた 具体的な方策の概要	新学習指導要領の趣旨を踏まえた具体的な方策の実施計画					
		取組・施策	実施計画				
			2012 (H24)	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)
農業科	インターンシップによる勤労観・ 職業観の育成	意欲的に参加 できる環境の 整備、キャリア 教育の年間指 導計画の立案、 実施	現状の把 握、キャ リア教育 に関する 年間指導 計画の策 定	キャリア 教育に関 する年間 指導計画 の実施	(インタ ーンシッ プ) [80%]	(実施内 容の報 告)	[100%]
	農業の担い手の育成	地域農業研修 会など地域の 農家との交流 活動の実施	現状の把 握と新た な交流活 動と研修 会の策定	研修会の 実施	[60%]	(実施内 容の報 告)	[100%]
工業科	技術者に求められる使命・責任、 倫理観に関する教育の実践	規範意識や倫 理観を育む年 間指導計画の 実施	規範意識 や倫理観 を育む年 間指導計 画の策定	規範意識 や倫理観 を育む年 間指導計 画の実施			
	職業人としての倫理観の体験的学 習	企業実習(地域 ものづくりス キルアップ講 座、インター ンシップ等)での 実施	企業実習 での実施				
商業科	ビジネスマナー教育の充実	身だしなみ、挨拶、言葉遣いなど のビジネスマナー教育の実施	科目「ビ ジネス基 礎」にお けるマナ ー教育の 副教材の 電子デー タ化	科目「ビ ジネス基 礎」での マナー教 育の実施 と評価、 マナー競 技全校予 選の実施 [80%]	前年度の 検証と副 教材の改 訂 [100%]		
水産科	法令遵守の精神や企業倫理観の育 成	外部講師によ る食の安全・資 源管理の授業 を実施	企業の品 質管理担 当者によ る授業の 実施 [50%]	[80%]	[100%]	品質管理 に関する 実習・実 験の研究 と実施 [50%]	[100%]

大学 科名	新学習指導要領の趣旨を踏まえた 具体的な方策の概要	新学習指導要領の趣旨を踏まえた具体的な方策の実施計画					
		取組・施策	実施計画				
			2012 (H24)	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)
家庭科	規範意識や倫理観、起業家マインドの育成	専門部会で職業人としての規範意識や倫理観の育成について研究	「生活産業基礎ノート」の改訂	各校で「生活産業基礎ノート」の見直し・改訂 [100%]			
看護科	災害時の場面などにおける倫理観の育成	職業人としての規範意識や倫理観を育む年間指導計画の実施、学習成果発表会の開催	規範意識や倫理観を育む年間指導計画の策定と科目「看護の統合と実践」での外部講師の導入、校内体験発表会の実施 [50%]	規範意識や倫理観を育む年間指導計画の実施、評価・改善 [100%]			
福祉科	福祉専門職としての職業観や倫理観の育成	介護福祉士会倫理綱領や個人情報保護法の指導	介護福祉に関するマナー教育等について検討及び実施、評価・改善			[100%]	

(2) 環境・エネルギー問題への対応

大学 科名	新学習指導要領の趣旨を踏まえた 具体的な方策の概要	新学習指導要領の趣旨を踏まえた具体的な方策の実施計画					
		取組・施策	実施計画				
			2012 (H24)	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)
農業科	地域の農業や地域社会の発展に貢献できる農業技術の研究	自然エネルギーの利用等をテーマにした学習活動の推進	現状把握と社会に貢献できるプロジェクトの計画	→	プロジェクト発表会での発表	→	
	農業系廃棄物の再利用化	有機廃棄物、剪定枝、食物残渣等の再利用化への取組	施設・設備を含めた現状把握と学習活動の在り方の検討	環境・エネルギー学習の実践	(報告会の実施)	→	
	環境の改善を図る態度の育成 (演習林実習)	森と豊かな環境について理解を深化させ、演習林教育の在り方についての協議の実施	演習林設置校において演習林教育の見直し	演習林を活用した環境教育の実践、共同利用の検討	報告会の実施	→	
工業科	環境・エネルギー問題への対応	環境・エネルギー問題への対応に関する年間計画の実施	環境・エネルギー問題への対応に関する年間計画策定	環境・エネルギー問題への対応に関する年間計画の実施	→	→	
	バイオテクノロジー、次世代自動車、自然エネルギーに関する実習プログラムの開発	バイオテクノロジー、次世代自動車、自然エネルギーに関する実習プログラムの開発・実施	検討	全ての学科における科目「工業技術基礎」 「実習」での教材開発	全ての学科における科目「工業技術基礎」 「実習」での実践	→	

大学 学科名	新学習指導要領の趣旨を踏まえた 具体的な方策の概要	新学習指導要領の趣旨を踏まえた具体的な方策の実施計画					
		取組・施策	実施計画				
			2012 (H24)	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)
商業科	科目「商品開発」における環境と食の問題への対応	科目「商品開発」で環境と食の問題に対する研究及び考察を実施	部会による環境と食に関する教材開発	モデル校（3～5校）を指定し、科目「商品開発」での導入を目指した研究	実施校及び実施科目の拡大 [80%]	[90%]	[100%]
水産科	科目「海洋環境」における地球環境の保全に関する問題への対応	海洋環境や自然エネルギーの利用等の問題を解決する能力の育成	科目「海洋環境」に関する年間指導計画の研究	科目「海洋環境」に関する年間指導計画の実施 [33%]	[66%]	[100%]	
家庭科	科目「家庭基礎」、「家庭総合」における環境・エネルギー、食の問題に関する内容の実施	科目「家庭基礎」、「家庭総合」の学習ノートを改訂	学習ノートの研究・改訂	各校で学習ノートの活用及び改訂 [100%]			
	環境学習に関する社会見学の実施	学校単位で現状把握や学んだ知識を再確認するための社会見学を計画・実施	社会見学の計画立案	社会見学の実施			
看護科	新科目「生活と看護」、「看護の統合と実践」における環境問題に関する基礎知識の定着	環境・エネルギー等に関する年間指導計画の実施	環境・エネルギー等に関する年間指導計画の策定及び実践 [50%]	科目「公衆衛生看護」、「災害看護」での環境・エネルギー等に関する年間指導計画の策定及び実施 [100%]			
福祉科	科目「家庭総合」、「生活支援技術」等における環境・エネルギー問題に関する指導の充実	環境・エネルギー問題に関する年間指導計画の実施	検討・実施及び評価・改善 [50%]				[100%]

(3) 情報の活用、情報モラル等の情報教育の充実

大学 科名	新学習指導要領の趣旨を踏まえた 具体的な方策の概要	新学習指導要領の趣旨を踏まえた具体的な方策の実施計画					
		取組・施策	実施計画				
			2012 (H24)	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)
農業科	農業科における情報活用能力の育成	科目「農業情報処理」や「課題研究」による情報活用の実践力の向上及び情報モラルに対する意識の向上	情報モラル、セキュリティに関する知識と技術の習得方法の検討	情報の管理・取扱いに関する指導の実施	報告会の実施 [50%]		[100%]
工業科	工業科における情報モラル等の育成	科目「情報技術基礎」において、情報モラル等に関する年間指導計画の実施	情報モラル等に関する年間指導計画策定	情報モラル等に関する年間指導計画の実施			
		指導者の情報モラル、著作権に関する意識や指導力の向上	情報モラル、著作権に関する研修の実施と状況の把握			現職研修における教員の意識や指導力を向上	
商業科	電子商取引などの実習を通じた情報モラル等の育成	情報モラルを育む指導の実施	科目「情報処理」における情報モラル教育の実施及び科目「電子商取引」における情報モラルQ & A集の開発	科目「電子商取引」における情報モラル教育の実施	(前年の検証と情報モラルQ & A集の改訂)		

大学 学科名	新学習指導要領の趣旨を踏まえた 具体的な方策の概要	新学習指導要領の趣旨を踏まえた具体的な方策の実施計画					
		取組・施策	実施計画				
			2012 (H24)	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)
水産科	水産科における情報機器の活用と情報モラルの育成	科目「海洋情報技術」による情報教育の充実	情報モラルに関する年間指導計画の研究	情報モラルに関する年間指導計画の実施			
家庭科	情報機器（パソコン、電子黒板、AV機器）の活用	情報機器を活用した教材の研究	教材研究	教材研究・教材の活用と評価・改善 [20%]	[50%]	[80%]	[100%]
	家庭科における情報モラル等の育成	知的財産の保護、情報の管理、情報モラルに関する年間指導計画の策定	情報モラルに関する年間指導計画の作成及び教材研究	教材を活用した授業展開と評価・改善			
看護科	医療・看護における情報モラル等の育成	科目「看護情報活用」による情報モラル等に関する年間指導計画の実施	情報モラルに関する年間指導計画の策定と実施及び評価・改善 [100%]				
福祉科	福祉科における情報機器の活用と情報モラル等の育成	科目「福祉情報活用」による介護現場で必要とされる情報処理技術の習得	情報処理技術の習得及び情報モラル教育の実施・検討	情報処理技術の習得及び情報モラル教育の評価・改善			



4 上記以外の各専門教科別視点を踏まえた生徒の育成

農業科

大学 科 名	新学習指導要領の趣旨を踏まえた 具体的な方策の概要	新学習指導要領の趣旨を踏まえた具体的な方策の実施計画					
		取組・施策	実施計画				
			2012 (H24)	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)
農業科	学科を横断した指導体制の確立	広汎な農業知識・技術を身に付けた生徒の育成	より広い分野の知識・技術 を高める 教育内容 の検討	教育内容 の 実践と 検討	→	実施した 教育内容 の 検証と 改訂の 検討	→

工業科

大学 科 名	新学習指導要領の趣旨を踏まえた 具体的な方策の概要	新学習指導要領の趣旨を踏まえた具体的な方策の実施計画					
		取組・施策	実施計画				
			2012 (H24)	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)
工業科	大学、専攻科（総合技術高等学校（仮称））等、進学に対応した生徒の育成	高度な技術・技能者とするための生徒の育成と指導の強化	検討	学校の枠を越えた生徒育成システムの構築	学校の枠を越えた生徒育成システムの実施	→	

商業科

大学 科 名	新学習指導要領の趣旨を踏まえた 具体的な方策の概要	新学習指導要領の趣旨を踏まえた具体的な方策の実施計画					
		取組・施策	実施計画				
			2012 (H24)	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)
商業科	観光関連科目の新設	地域振興に役立てるための観光関連科目の新設	モデル校（1～3校）による観光関連科目の検討、年間指導計画の策定及び高大連携の実施	モデル校による科目の新設及び高大連携の実施	モデル校の実践による検証と科目の再構築	→	
	上級資格を生かした進学指導体制の確立	進学指導に対応できる資格指導体制の確立	進学希望者を対象とした特別講座の実施と評価 [50%]	進学合同合宿の実施と評価 [70%]	実践の評価と指導体制の再構築 [100%]	→	

大学 科名	新学習指導要領の趣旨を踏まえた 具体的な方策の概要	新学習指導要領の趣旨を踏まえた具体的な方策の実施計画							
		取組・施策	実施計画						
			2012 (H24)	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)		
商業科	商業教育の情報発信	中学校等に対する商業教育の有効な情報発信策の考案	ホームページの作成及びホームページを通じた情報発信の実施と評価	評価に基づくホームページの改良と情報発信策の再構築					

水産科

大学 科名	新学習指導要領の趣旨を踏まえた 具体的な方策の概要	新学習指導要領の趣旨を踏まえた具体的な方策の実施計画							
		取組・施策	実施計画						
			2012 (H24)	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)		
水産科	新科目「水産海洋基礎」における小型船舶操縦士等の国家資格の取得を目指した教育の実践	海洋に関する総合的な教育と小型船舶操縦士の資格取得を目指した教育の実践	小型船舶操縦士の資格取得等に関する年間指導計画の研究	小型船舶操縦士の資格取得等に関する年間指導計画の実施 [33%]					

家庭科

大学 科名	新学習指導要領の趣旨を踏まえた 具体的な方策の概要	新学習指導要領の趣旨を踏まえた具体的な方策の実施計画							
		取組・施策	実施計画						
			2012 (H24)	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)		
家庭科	家庭科の特色を生かしたキャリア教育の推進	発達段階に応じたキャリア教育の年間指導計画の立案・実践	キャリア教育の年間指導計画の立案・実践、評価・改善、情報交換						

看護科

大学 科 名	新学習指導要領の趣旨を踏まえた 具体的な方策の概要	新学習指導要領の趣旨を踏まえた具体的な方策の実施計画					
		取組・施策	実施計画				
			2012 (H24)	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)
看護科	科目「看護の統合と実践」における看護技術の習得	臨床実践能力の向上に向けた臨床との意見交換を取り入れた授業計画と外部講師の導入	臨床実践能力の向上に関する年間指導計画の策定及び実技評価の教材検討と開発 [50%]	授業の実施及び外部講師の導入 [100%]			

福祉科

大学 科 名	新学習指導要領の趣旨を踏まえた 具体的な方策の概要	新学習指導要領の趣旨を踏まえた具体的な方策の実施計画					
		取組・施策	実施計画				
			2012 (H24)	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)
福祉科	全国産業教育フェアにおける介護技術コンテストへの参加	介護技術コンテストに関する指導計画の作成及び指導体制の確立	介護技術コンテストに関する指導計画作成・実施・評価	介護技術コンテストに関する指導計画の改善・実施及び評価 [50%]			[100%]

## 第 部

キャリア教育・職業教育を通じた本県産業を担う人材の育成方策

## キャリア教育の推進に向けて

### 1 キャリア教育の必要性

「キャリア教育」という用語は、中央教育審議会答申「初等中等教育と高等教育との接続の改善について（平成11年12月）」で初めて使用された。この答申では小学校段階から発達段階に応じてキャリア教育を実施する必要があると提言された。

その後、平成20年1月の中央教育審議会答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について」においても、新しい学習指導要領でのキャリア教育の充実が求められ、平成21年3月にはこの答申等に基づいて高等学校学習指導要領が改訂された。

新学習指導要領では、総則第5款の「4 職業教育に関して配慮すべき事項」の（3）において、「学校においては、キャリア教育を推進するために、地域や学校の実態、生徒の特性、進路等を考慮し、地域や産業界等との連携を図り、産業現場等における長期間の実習を取り入れるなどの就業体験の機会を積極的に設ける」こと、また、「5 教育課程の実施等に当たって配慮すべき事項」の（4）において、「生徒が自己の在り方生き方を考え、主体的に進路を選択することができるよう、学校の教育活動全体を通じ、計画的、組織的な進路指導を行い、キャリア教育を推進すること」が示され、キャリア教育の推進が強く求められている。

### 2 基礎的・汎用的能力を育成するために

キャリア教育推進のため、中央教育審議会が平成23年1月にとりまとめられた「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」では、「社会人・職業人としての自立が迫られる時期である高等学校におけるキャリア教育の充実は、喫緊の課題である」と記載されるとともに、社会的・職業的自立や学校から社会・職業への円滑な移行に必要な力について、「基礎的・汎用的能力」をあげている。「基礎的・汎用的能力」は、「人間関係形成・社会形成能力」、「自己理解・自己管理能力」、「課題対応能力」、「キャリアプランニング能力」の4つの能力によって構成される。

本県高等学校における、これらの4つの能力の育成に必要な視点を以下に示すとともに、参考として各学科の「基礎的・汎用的能力」の育成に向けた方策について添付（P31～P35）する。

#### (1) 人間関係形成・社会形成能力

人間関係形成・社会形成能力とは、多様な他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝えることができるとともに、自分の置かれている状況を受け止め、役割を果たしつつ他者と協力・協働して社会に参画し、今後の社会を積極的に形成することができる力である。

この力を育成するため、例えば、普通科においては、ホームルーム活動等を通して、感じたこと、考えたことをグループで話し合い、相互の理解

を図り、協力して発表する機会を積極的に設ける。また、社会人講話やインターンシップ、ボランティア活動等を通して、さまざまな立場や年齢の人々と関わる経験を積み、コミュニケーションスキルを身に付けるなど、他者と協力する意識や態度を育成していくことが考えられる。

専門学科においては、インターンシップや実習などの体験的な学習を通して、組織内の人間関係やグループ内の自分の役割について学び、コミュニケーションスキルを身に付けるとともに、グループ内で協力、協働し、研究、実験、実習の結果についてのデータ整理や考察、発表等を通して、チームワークやリーダーシップ等を育成していくことが考えられる。

総合学科においては、科目「産業社会と人間」等において、将来の職業選択を視野に入れた各種企業や施設等の見学を自ら設定するなど、多様な他者との関わりの中で、円滑な人間関係を形成する意識や態度を育成していくことが考えられる。

## (2) 自己理解・自己管理能力

自己理解・自己管理能力とは、自分が「できること」、「意義を感じること」、「したいこと」について、社会との相互関係を保ちつつ、今後の自分自身の可能性を含めた肯定的な理解に基づき主体的に行動すると同時に、自らの思考や感情を律し、かつ、今後の成長のために進んで学ぼうとする力である。

この力を育成するため、例えば、普通科においては、「総合的な学習の時間」や「ホームルーム活動」等を活用して、職業調査や学部・学科の研究に取り組むことなどにより、自己の適性について客観的に分析し、将来への目標を明確にして、自ら学ぼうとする意欲や態度を育成していくことが考えられる。

専門学科においては、3年間の学習プランの立案とその実践を通して、職業人に必要な資質、能力、知識・技術を身に付け、自らの役割を理解し、主体的に行動する能力を育成していくことが考えられる。

総合学科においては、「総合的な学習の時間」等におけるグループ学習を通して、職業の実際を理解し、興味・関心の所在や自己の適性等を明確にし、前向きに考える力を育成していくことが考えられる。

## (3) 課題対応能力

課題対応能力とは、仕事をする上でのさまざまな課題を発見・分析し、適切な計画を立ててその課題を処理し、解決することができる力である。

この力を育成するため、例えば、普通科においては、各教科及び「総合的な学習の時間」における探究活動や企業訪問・高大連携等への積極的な参加などを通して、気付いたことや関心をもったことを自分の生活や行動と関連付けて考え、新たな課題を発見したり、意欲を高めたりするなど、課題の本質を理解し、その課題を解決する力を育成していくことが考えられる。

専門学科においては、科目「課題研究」等の学習を通して、計画・準備・実践・まとめ・報告・発表の一連の学習体験から、課題解決に対応する能力を培うとともに、課題解決に至る過程では、授業や体験実習等で得た知識、技術及び技能を発揮し、創意工夫する態度を育成していくことが考えられる。

総合学科においては、「総合的な学習の時間」等における課題の設定や探究する活動を通して、学び方やものの考え方を身に付け、多様な他者の協力を得て協同的に取り組み、課題を解決する力を育成していくことが考えられる。

#### (4) キャリアプランニング能力

キャリアプランニング能力とは、「働くこと」の意義を理解し、自らが果たすべきさまざまな立場や役割との関連を踏まえて「働くこと」を位置付け、多様な生き方に関するさまざまな情報を適切に取捨選択・活用しながら、自ら主体的に判断してキャリアを形成していく力である。

この力を育成するため、例えば、普通科においては、さまざまな分野で活躍する卒業生や社会人の講話等により、社会の一員として、自己実現につながる将来への道筋を考えることなどを通して、高等学校卒業時の進路目標を設定し、計画的・主体的に学ぶ意欲や態度を育成していくことが考えられる。

専門学科においては、自らが将来のスペシャリストとしてどうあるべきかを考え、専門的知識、技術及び技能を身に付けるとともに、職業資格の取得等を通して、どのように地域社会に貢献できるかを意識し、自らの将来を設計する能力や態度を育成していくことが考えられる。

総合学科においては、科目「産業社会と人間」等におけるキャリアプラン・ライフプランの作成を通して、卒業後の進路選択を視野に入れた科目の選択能力の向上を図るとともに、長期的な視点に立った自己の将来の生き方を考える能力や態度を育成していくことが考えられる。

#### (5) 基礎的・汎用的能力を構成する4つの能力の設定

これらの4つの能力は、それぞれが独立したものではなく、相互に関連したものであり、特に順序性があるものではない。これらの能力をどのようなまとまりで、どの程度身に付けるかは、学校や地域の特色、専門分野の特性等により異なる。したがって、各校ではそれぞれの課題を踏まえて、目指す生徒像の具体的な能力を設定し、工夫された教育を通して、目標の達成を図らなければならない。

また、職業学科では、各専門科目の基礎的な科目から、問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む科目「課題研究」等に至るまでの学習の流れとキャリア教育を関連付けることが必要である。

## 本県産業を担う人材の育成方策

本県産業を担う人材を育成するためには、生徒一人一人が「生きる力」を身に付け、しっかりとした勤労観や職業観を確立し、将来直面するであろうさまざまな課題に柔軟かつたくましく対応する能力の育成が求められている。

### 1 キャリア教育の充実

#### (1) 道徳性・社会性の向上

本県産業を担う人材の育成方策を進めるに当たっては、本県の教育振興基本計画である「愛知の教育に関するアクションプラン」(注1)にも掲げている、道徳性や社会性の育成が不可欠である。道徳教育の充実や交流活動等により、人間としての在り方生き方に関する教育を、学校の教育活動全体を通じて行うことにより、道徳性・社会性の向上を図る。

(注1)平成23年6月県教育委員会作成

(<http://www.pref.aichi.jp/0000042405.html>)

#### (2) 基礎的・汎用的能力の育成

将来どのように社会に参画していくかを考える教育の充実が求められている。本答申の第 部「 キャリア教育の推進に向けて」で示した「基礎的・汎用的能力」の育成を図るための学習活動を各学科の特色を生かして展開し、キャリア教育の一層の充実を図る。

#### (3) 体験的な活動の充実

学校から職業・社会への移行を進めるにあたり、規範意識の醸成や倫理観の育成が重要である。その育成は、「知育」、「体育」、「食育」などの基盤となる教育が着実に実践された上で、はじめて期待できるものであり、インターンシップ等、実社会や職業との関わりを通して、必要な人間性を養う必要がある。

そのため、県立高等学校で学ぶ全ての生徒に、総合的な学習の時間等における卒業生・地域の職業人等とのインタビューや対話に加えて、インターンシップ、ジョブシャドウイング等の就業体験活動の充実を図る。

また、普通科においても、総合学科における原則履修科目である「産業社会と人間」のような、将来の職業生活の基礎となる能力や態度を育成するための学校設定教科・科目等の設置を推進する。

#### (4) キャリア教育ノートの活用

生徒自らの力で生き方を選択するために必要な能力、態度を身に付けるためには、発達の段階に応じた系統的なキャリア教育の充実は不可欠である。そのため、小学校から中学校、そして高等学校へと、児童生徒一人一人のキャリア形成に関する学習やその成果に関する記録を作成することが重要である。記録を作成することは、過去の自分を振り返り、現在の自



分を見つめ、自己の将来を考えることとなり、そのために、ワークシートをファイルしていくポートフォリオ形式の「キャリア教育ノート」(注2)の積極的な活用を進めるとともに、「キャリア教育会議」(注3)等でその成果等について検証を行い、その内容等の改善・充実を図る。

(注2)平成24年2月県教育委員会作成

(<http://www.pref.aichi.jp/kyoiku/gimukyoyoku/career23/00NoteIntro.html>)

(注3)体験活動を通して、小・中学校から高等学校や特別支援学校の各発達段階での社会性の涵養、自己有用感や勤労観・職業観の育成、主体的な進路選択ができる能力等を育成するため、キャリア教育を体系的・継続的につなげていく観点から、平成23年度より年2回程度、有識者や産業団体、保護者代表等を委員として開催している。

#### (5) キャリア教育全体計画・年間指導計画の作成

教育活動全体を通して、系統的・組織的なキャリア教育を行うためには、各教科・科目、総合的な学習の時間及び特別活動の相互の関連性や系統性に留意し、発達の段階に応じた教育活動の展開が不可欠であり、各学校の教育課程に適切に位置付け、計画に基づいて実施する必要がある。キャリア教育全体計画・年間指導計画を作成するとともに、教職員が自ら担当するそれぞれの教科とキャリア教育との関連を図る。また、校内にキャリア教育推進委員会等を設置するなどして、キャリア教育推進のための組織を確立させる。

高等学校入学から卒業までを見通した系統的なキャリア教育を実施することで、生徒が、現在と将来、学ぶことと働くことを関連付けて考え、目標をもって学校生活が送れるよう指導していく。

## 2 外部の資源や人材との連携によるキャリア教育・職業教育の充実

### (1) あいち夢はぐくみサポーター制度の活用

地域の教育環境や教育力を生かした活動は、生徒のキャリア発達には欠かせない。そのため、「あいち夢はぐくみサポーター」(注4)制度の積極的な活用を図るとともに、地域の人々や企業・団体・NPO法人等がそれぞれの地域の実態に応じて学校を支援する仕組みを構築する。

(注4)平成23年度から社会人講師の派遣等に協力していただける事業所や施設を「あいち夢はぐくみサポーター」として広く募集している。サポーターの趣旨に賛同する事業所等は、Webページにある登録申請書で申請を行い、教育委員会は、申請事業所等の審査を行い、認定書を発行する。学校は、サポーターの支援活動情報を確認し、インターンシップ等を依頼する。

(Web ページアドレス：<http://www.pref.aichi.jp/kyoiku/kotogakko/hagukumi/index.html>)

### (2) 上級学校との連携

上級学校との連携を深めることは、生徒にとって進路情報の収集に役立つだけでなく、現在の学習内容と将来の学びとの関連性を認識することになり、学習意欲の喚起や将来の職業選択に向けた心構えを養うことにつながる。

そのため、「あいちの学校連携ネット」(注5)の活用を促進するとともに、高校生のための「あいちの大学『学び』フォーラム」(注6)等により、上級

## 学校との連携を一層進める。

(注5) 愛知県内に49の4年制大学があり、県教育委員会がこれらの大学と連携することにより、高校生に大学の教育に触れる機会を提供したり、大学生が小・中学校の学校現場で子どもたちの学びを支援したりするなどの取組を推進し、本県教育の向上につなげていくためのサイトを設置している。

(<http://www.gakkourenkei.aichi-c.ed.jp/index.html>)

(注6) 県内全ての国公私立の高校及び特別支援学校高等部1～2年生を対象に、大学教員が自らの専門分野をわかりやすく講義し、その分野に関心のある生徒に大学の「学び」に触れる機会を提供して、その後の生徒自身による進路選択の一助としていくことを目的とする。

## 3 地域産業を担う人材の育成を目指した職業教育の充実

### (1) 将来のスペシャリストとして活躍できる人材の育成

専門学科では、本答申の第 部「新学習指導要領の趣旨を踏まえた人材の育成方策」で示した各学科の5か年計画を基に、将来のスペシャリストとして活躍できる人材の育成を図る。なお、5か年計画については、それぞれの要素について、P D C A (Plan-Do-Check-Action) サイクルに基づき、年度ごとに結果を検証し、目標の達成に努める。

### (2) 産業現場等における長期実習の実施

社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力や態度を育成するため、専門学科では、産業現場等における10日間から3週間程度の長期間の実習を取り入れるなど、生徒全員の就業体験の充実に努める。その際、現在、長期実習に取り組んでいる学校の成果を他校の取組に生かしていく。

さらに、それぞれの授業においてより実践的な技術・技能を習得できるよう、外部人材を積極的に活用した授業ができるよう配慮する。

### (3) 施設・設備等の改善・充実

将来のスペシャリストの育成に必要な専門分野に関する基礎的・基本的な知識、技術及び技能の確実な定着を図るためには、施設・設備等の改善・充実は不可欠である。基礎・基本を身に付けるうえで必要不可欠な設備をはじめとして、それぞれの学校の実情に応じ、計画的な整備に努める。

また、専門学科を拠点とした地域のネットワーク化を図り、普通科、総合学科の生徒も専門学科の施設を共同利用ができるよう配慮する。

### (4) 高等学校専攻科の充実

平成27年4月に開校が計画されている総合技術高等学校(仮称)には、本県初の工業科機械・電気系の専攻科が設置される。

現在あるセラミック陶芸科、海洋技術科、衛生看護科の専攻科とともに、高等学校卒業後、さらに高度な知識、技術及び技能を身に付け、現場においてけん引役となることのできる人材の育成を目指す。そのために、本科とともに5年一貫教育を踏まえた教育課程の充実に努めるとともに、長期間の現場実習(3か月程度)を行い、社会が求める実践力・現場対応力の育成に努める。

#### (5) 教員の資質の向上

生徒が変化の激しい21世紀を生き抜くために、これからの学校は、基礎的・基本的な知識・技能の習得に加え、横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して、幅広い知識や柔軟な思考力を養い、変化に対応する能力や資質を身に付けることが求められている。そのため、教員が地元企業で研修したり、地域と連携した取組を展開したりすることで、視野を広げ、学び続ける教員として向上心をもつとともに、より実践的かつ総合的な知識、技術及び技能を身に付け、その資質の向上に努める。

#### 4 専門学科等で学ぶ誇りの醸成と理解の促進

専門学科及び総合学科では、生徒に将来のスペシャリストとして活躍することを自覚させるとともに、専門分野を学んでいる誇りを醸成する必要がある。そのため、専門分野の基礎的・基本的な知識、技術及び技能を身に付けるための教育と地域産業や地域社会との連携・交流を通じた実践的教育を合わせて行い、地域産業や地域社会への理解と貢献の意識を高める。

平成22年度から3年間実施している「あいちさんフェスタ」では、専門学科等で学ぶ生徒の学習成果の発表や活動を県民に積極的に広報し、専門学科及び総合学科の魅力と役割の理解を促す機会となった。また、平成25年度に開催される「第23回全国産業教育フェア愛知大会」を契機に、各地域の産業団体や市町村との連携・協力を一層推進し、地域のイベント等への参加も含めて、生徒の発表の場を積極的に設ける。さらに、その成果や課題について学校関係者評価委員会等で地域住民や保護者の意見も受け止めながら、その取組を改善することにより、専門学科等で学ぶ誇りの醸成と幅広い県民の理解の促進につなげる。

#### おわりに

本県産業を担う人材の育成を推進するためには、生徒自ら将来のキャリア形成を考え、選択していくことが重要である。したがって、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力や態度の育成が求められるとともに、キャリアを積み上げていく中で、必要な知識等を、教科・科目等の学習を通して理解を図り、生徒が自らの勤労観・職業観を確立し、人生観・社会観等を含んだ価値観の形成に努めなければならない。

そのために、学校、家庭、地域住民、産業界及び上級学校等において、産業教育におけるそれぞれの役割と責任を自覚するとともに、これまで以上に相互の連携及び協力を努めることが求められる。

県教育委員会は、本県産業を担う人材の育成を図るため、本答申で示した方策の進捗状況について、年度ごとに検証し、本県産業を担う人材の育成に向けて努力することが必要である。

(参考) 各学科の「基礎的・汎用的能力」の育成に向けた方策

学科	人間関係形成・社会形成能力	自己理解・自己管理能力	課題対応能力	キャリアプランニング能力
普通科	<p>社会人講話やインターンシップ、ボランティア活動等を通して、さまざまな立場や年齢の人々とのコミュニケーションにより、人間関係形成・社会形成能力を育む。</p> <p>職場見学、大学訪問、社会人講話等を通して、感じたこと、考えたことをグループで話し合うとともに協力して発表し、他者と協力することの大切さや互いの良さに気付き、ともに高め合うことで人間関係形成・社会形成能力を育む。</p>	<p>「総合的な学習の時間」や「ホームルーム活動」等を活用して、職業調査や学部・学科の研究に取り組むことなどにより、広く社会に目を向ける体験を積んだ上で、自分が将来どのように社会に参画していくかを考えることで自己理解・自己管理能力を育む。</p> <p>職業と必要な資格、大学の学部・学科等の関連と自己の特性を比較することなどを通して、職業の3つの側面(生計の維持、社会的役割の実現、個性の発揮)への視点を持ちながら、適性について客観的に分析し、将来への目標を設定できるようにすることで自己理解・自己管理能力を育む。</p>	<p>各教科及び「総合的な学習の時間」における探究活動や企業訪問・高大連携等への積極的な参加などを通して、気付いたことや関心をもったことを自らの生活や行動と関連付けて考え、新たな課題を発見したり、意欲を高めたりするなど、高校生活を見直すことにつなげ、課題対応能力を育む。</p> <p>ボランティア活動や職場見学、インターンシップ等を通して、実施状況を自己評価したり、改善策を検討したりすることで課題対応能力を育む。</p>	<p>さまざまな分野で活躍する卒業生や社会人の講話等により、社会の一員として、自己実現につながる将来への道筋を考えることを通して、高等学校卒業時の進路目標を設定することでキャリアプランニング能力を育む。</p> <p>設定した目標の達成に向けて、高校生活で何を身に付ける必要があるのか、そのためにどのような行動をとればよいのかを考えることを通して、自らを律しながら目標に向かって努力することでキャリアプランニング能力を育む。</p>
農業科	<p>学校農業クラブ活動を通して、農業の役割や課題に取り組み、指導者や生徒と積極的に意見交換したり発表したりすることで人間関係形成・社会形成能力を育む。</p> <p>農産物の販売実習を通して、人と人との関わりや生徒同士の間人間関係を構築することで人間関係形成・社会形成能力を育む。</p> <p>インターンシップを通して、組織内での人間関係、グループ内の自分の役割について学び人間関係形成・社会形成能力を育む。</p>	<p>農業生物の育成と環境の保全についての体験的、探究的な学習を通して、生命の大切さや環境を保全することの重要性を学び、自己理解・自己管理能力を育む。</p> <p>調査・観察で得られる発見や感動を通して、素材を扱う難しさ、大切さを学び、自己理解・自己管理能力を育む。</p> <p>作物の栽培や家畜の飼育を通して、生き物を育てることの難しさや生産物を販売することの難しさを体験し、その内容を振り返ることで自己理解・自己管理能力を育む。</p>	<p>プロジェクト学習を通して、計画・準備・実践・まとめ・報告・発表の一連の学習体験から、問題解決に対応する能力を培い、情報化やグローバル化に対応できる資質を身に付け、課題対応能力を育む。</p>	<p>実習や「総合的な学習の時間」の中で実施するキャリアガイダンスを通して、どのような仕事があるかを理解することでキャリアプランニング能力を育む。</p> <p>進路説明会や社会人講師による在り方生き方に関する講習会を通して、キャリア意識の高揚を図り、自ら将来のスペシャリストとしてどうあるべきかを考えることでキャリアプランニング能力を育む。</p> <p>卒業生との懇談会を通して、具体的な仕事の内容や、その仕事に就くための方策について話し合う機会をもち、自らの将来設計について考えることでキャリアプランニング能力を育む。</p>

学科	人間関係形成・社会形成能力	自己理解・自己管理能力	課題対応能力	キャリアプランニング能力
工業科	ものづくりを通して、グループ内で協力、協働するとともに自分の役割を果たすことで人間関係形成・社会形成能力を育む。 実験・実習等の結果についてのデータ整理や考察、発表等を通して、コミュニケーションスキル、チームワーク、リーダーシップ等の能力を身に付け、人間関係形成・社会形成能力を育む。	企業実習を通して、現場の職業人の倫理観に触れ、仕事の喜びや社会への貢献などを意識させながら、自己実現に向けた学習をすることで自己理解・自己管理能力を育む。 実験・実習等を通して、将来の工業に関する広い視野と工業を取り巻く状況の変化に対応できる基礎的・基本的な知識、技術及び技能、安全衛生を身に付け、自己理解・自己管理能力を育む。	工業のもつ社会的な意義や役割の理解を通して、地域社会のニーズに応じた学習内容・研究活動を行うことで課題対応能力を育む。 工業各学科の特性を生かした地域貢献を通して、課題解決に向けた学習活動とともに、課題解決に至る過程においては、実験・実習等で得た知識、技術及び技能を発揮するとともに、創意工夫することで課題対応能力を育む。	工業技術への興味・関心を高めることを通じて、技術者として専門的知識、技術及び技能を生かしてどのように社会に貢献できるか考え、自らの将来を設計することでキャリアプランニング能力を育む。なお、より高度な知識、技術及び技能の習得を目指す生徒には、大学、専攻科(総合技術高等学校(仮称))等への進学も視野に入れた学習環境を構築する。
商業科	販売実習や接客マナー等の競技会を通して、ビジネスの場面に応じたコミュニケーション能力を身に付け、人間関係形成・社会形成能力を育む。 電話対応や来客対応等の実習を通して、マナー教育を積極的に実践することで人間関係形成・社会形成能力を育む。	地域や産業界との連携による地域イベントや販売実習等を通して、学校で学んだ知識や技術を活用させ、達成感や成就感を味わうことで自己理解・自己管理能力を育む。 インターンシップやボランティア活動等の体験活動を通して、多様な人間関係を体験し、他者への理解を深めることで自己理解・自己管理能力を育む。	知識や技術の習得にとどまらず、経済社会や実務に目を向けるため、新聞、放送、インターネットなどの活用、経済活動の具体的な事例を取り上げたケーススタディやグループでの考察、討論などを通して、問題の分析能力を身に付け、課題対応能力を育む。 商業に関する課題を生徒が自ら発見して解決する能力や生涯にわたって自発的、かつ、創造的に学習に取り組む態度を育てるなど課題解決の方法を身に付け、課題対応能力を育む。	商業の学びを将来の生活に具体的に結び付けることを通じて、各自の目標達成のための学習プランや生活プランを設計し、実践することでキャリアプランニング能力を育む。 高大連携を積極的に取り入れ、より高度で専門的な内容の学習機会を得ることを通じて、生涯にわたって学ぶ態度を育成することでキャリアプランニング能力を育む。 質の高いキャリア教育を推進することを通して、キャリア教育の観点で学習項目を系統的にまとめ、3年間の継続的な指導計画を立てることでキャリアプランニング能力を育む。

学科	人間関係形成・社会形成能力	自己理解・自己管理能力	課題対応能力	キャリアプランニング能力
水産科	<p>生徒主体の調査や研究及び外部の研究機関と連携した発表会を通して、自分の考えを正確に伝え、他者に働きかける力やコミュニケーション能力等を身に付け、人間関係形成・社会形成能力を育む。</p> <p>「愛知丸」による乗船実習を通して、ルールやマナーの大切さを学び、人間関係形成・社会形成能力を育む。</p>	<p>海洋環境の改善を目的とした連携を通して、海洋環境の改善に取り組み、自己肯定感を高めることで自己理解・自己管理能力を育む。</p> <p>実習における安全教育や食の安全に関する学習等を通して、正しい判断に基づいて行動する能力を身に付け、自己理解、自己管理能力を育む。</p>	<p>産学官の連携による新しい養殖技術の開発を通して、水産・海洋関連産業の発展を担う人材として開発に参加することで課題対応能力を育む。</p> <p>未利用水産資源の活用や新しい水産食品の開発を通して、自発的、創造的に解決する能力と態度を身に付け、課題対応能力を育む。</p>	<p>外部講師の導入による講座や実習等を通して、実践的かつ具体的な「働くこと」の意義を理解することでキャリアプランニング能力を育む。</p> <p>「海・水産物・船」を素材とした学習を通して、興味・関心、目的意識をもち、スペシャリストとしての将来像を考えることでキャリアプランニング能力を育む。</p>
家庭科	<p>保育園・老人福祉施設訪問や異校種間交流、地域交流、産学連携を通して、さまざまな人々に対する理解を深め、生涯を通じてともに支え合って生きることの重要性や社会の果たす役割について認識することで人間関係形成・社会形成能力を育む。</p> <p>食品バザーやファッションショー等を通して、ものづくりの喜びを感じるとともに、チームワークの重要性や責任感、成就感を体得させることで人間関係形成・社会形成能力を育む。</p> <p>研究文・体験作文の応募やディスカッション、ロールプレイング、発表会等を通して、自分の考えを文章や言葉で表現する力やコミュニケーション能力を身に付け、人間関係形成・社会形成能力を育む。</p>	<p>3年間の学習プランの立案を通して、生活産業に関わる職業人に必要な資質、能力、知識・技術を身に付け、自己理解・自己管理能力を育む。</p> <p>各種コンクールへの積極的な参加や、生徒が自らの進路希望や興味・関心等に応じた資格取得を通して、自己能力の向上・開発を目指すことで自己理解・自己管理能力を育む。</p>	<p>ホームプロジェクトや学校家庭クラブ活動を通して、生活を科学的に探究する方法を身に付けることで、課題対応能力を育む。</p> <p>情報機器や情報ネットワークの活用を通して、実際に生活産業の情報を収集・処理・分析・発信する能力を身に付け、課題対応能力を育む。</p>	<p>卒業生や外部講師の講話、進路ガイダンス、職業人インタビュー、生活産業現場の見学等を通して、将来のスペシャリストを目指した専門的な学習への動機付けや進路についての意識を向上することでキャリアプランニング能力を育む。</p> <p>インターンシップの実施を通して、職業人としての規範意識を醸成し、勤労観・職業観・責任感・成就感などを体得することでキャリアプランニング能力を育む。</p> <p>外部講師による講座や実習等を通して、ライフプランを展望する力を育むとともに、生涯を見通した主体的な生活ができるようにすることでキャリアプランニング能力を育む。</p>

学科	人間関係形成・社会形成能力	自己理解・自己管理能力	課題対応能力	キャリアプランニング能力
看護科	<p>演習や実習等における他者の多様な考えや立場の理解を通して、相手の意見を聞いて自分の考えを言葉で表現したり、行動で表したりする能力を身に付け、人間関係形成・社会形成能力を育む。</p> <p>演習や実習等における援助する側とされる側の体験を通して、双方の立場を理解することで人間関係形成・社会形成能力を育む。</p> <p>臨地実習を通して、患者やその家族、看護職等の医療スタッフとの関わりの中で、他者と協力・協働して自分の役割を果たし、患者の置かれている状況を受け止め、共感することで人間関係形成・社会形成能力を育む。</p>	<p>臨地実習を通して、人間は失敗することもある存在として捉え、その自覚の上で適切に行動し、自己理解・自己管理能力を育む。</p> <p>臨地実習を通して、自分の成長を知り、自己肯定感を高めることで自己理解・自己管理能力を育む。</p> <p>看護専門職の講話を通して、看護の理念及び社会的役割を認識し、自己理解・自己管理能力を育む。</p>	<p>臨地実習を通して、実践した結果を、評価・修正し、その中で課題を見つけ、それを解決するために主体的に行動することで課題対応能力を育む。</p> <p>校内看護研究、出前授業及び臨地実習を通して、「人間が人間らしく生きる」という看護に必要な倫理観を身に付け、課題対応能力を育む。</p>	<p>援助やコミュニケーションを通して、看護の喜びや楽しさを見だし、看護を学ぶ目的を再確認することでキャリアプランニング能力を育む。</p> <p>臨地実習を通して、働くことの意義を見だし、自分の目指す将来像を形成することでキャリアプランニング能力を育む。</p> <p>医療の場で活躍するスペシャリストとの関わりを通して、専門職としての役割やキャリアデザインについて考えることでキャリアプランニング能力を育む。</p>
福祉科	<p>施設実習を通して、多様な福祉ニーズや介護サービス利用者について理解させるとともに、福祉サービス関係者等との連携を図れるよう、多職種による連携及び協働できる能力を身に付け、人間関係形成・社会形成能力を育む。</p> <p>校内演習や事例研究を通して、社会福祉に関する基礎的・基本的な知識・技術を総合的、体験的に身に付け、人間関係形成・社会形成能力を育む。</p>	<p>施設実習や福祉専門職の講話等を通して、社会福祉の理念と社会的な意義を理解することで自己理解・自己管理能力を育む。</p> <p>施設実習を通して、社会福祉関連の職業に従事するものとして求められる福祉観や倫理観を育み、介護者としてのあるべき姿勢を身に付け、自己理解・自己管理能力を育む。</p>	<p>社会福祉や社会保障の学びを通して、人間としての尊厳の保持やプライバシーの尊重など自立生活を支援する態度の必要性を理解することで課題対応能力を育む。</p> <p>介護演習、事例研究、調査及び研究等を通して、専門的な知識・技術の深化・統合化を図るとともに、自発的、創造的な学習を行うことで課題対応能力を育む。</p>	<p>介護福祉士の役割の重要性を理解させることを通して、介護の専門的な能力開発とキャリアアップに応じた研修を主体的に学ぶ意欲や態度を身に付け、キャリアプランニング能力を育む。</p> <p>実習、演習等を通して、社会福祉関連の職業に従事する者として、サービス利用者の立場に立った安全で確かなサービスの提供などを創造する能力と実践的な態度を学ぶことでキャリアプランニング能力を育む。</p>

学 科	人間関係形成・ 社会形成能力	自己理解・ 自己管理能力	課題対応能力	キャリアプランニング 能力
総合学科	科目「産業社会と人間」等における各種企業や施設等の見学、ボランティア活動等を通して、将来の職業生活を営む上で必要な態度やコミュニケーション能力を身に付け、人間関係形成・社会形成能力を育む。	「総合的な学習の時間」等におけるグループ学習を通して、コミュニケーションに関わる能力を向上させるだけでなく、自己理解を深める態度を身に付け、自己理解・自己管理能力を育む。	「総合的な学習の時間」等における研究課題の設定や探究する活動を通して、自発的な学習を行うことで課題対応能力を育む。	科目「産業社会と人間」等におけるキャリアプラン・ライフプランの作成を通して、卒業後の進路選択を視野に入れた科目の選択能力を向上させるとともに、長期的な視点に立った自己の将来の生き方や進路を考察する態度を学ぶことでキャリアプランニング能力を育む。